

地区別授業参観を実施しました。Vol.2 ～ 7月5日(月)-9日(金)

地区別授業参観についての第2弾です。保護者の皆様からのご意見・ご感想の続きを掲載しました。協働的な学びについては「協働的な学びについてのFAQ」も参照願います。近々学校ウェブサイトに掲載する予定です。タブレットを使う授業でも使わない授業でも、生徒たちはゆるやかなつながりの中で学んでいます。この「ゆるやかな協働」は一人一台のタブレット導入後も大切にしています。



【授業についての保護者の皆様からのご意見・ご感想（2）】・・・（ ）内は学校からの説明です。

- ・ICT：全ての教科で導入されていました。プレゼンテーションを作る場面で、パワポの使い方に習熟度の差があったので、仕上がり見た目に差が感じられました。使い方を知っているかどうかだけのことなので、詳しい子に、自分の課題が終わったら、使い方に関して、分からない子からの質問に答えてもらうような時間をとってみたいかがでしょう。
（これからもできるだけ生徒同士で学べる機会をつくっていきます。）
- ・グループになっているのに何故生徒が歩き回っているか不明な点がありました。
（基本的には自分のグループが「島」ですからその中で学ぶことになっています。総合的な学習などの場合、必要に応じて他のグループとの交流を促すこともあり得ます。）
- ・タブレットに夢中になっている様子で良いとも思ったが、視力低下しないかも不安に思った。
（休み時間に遠くを見たり昼休みには外に出たりして目を休めるように勧めています。）
- ・ノートの書き方・まとめ方など、モニターに写し出して見ることができるので、苦手な子には参考になってよいと思いました。
- ・参観した授業を見た限り、タブレットを使用している意味がわかりませんでした。
（次の機会にまたご覧ください。授業によってはタブレットの必要性がより明確に見られることがあると思います。）
- ・いくつかのグループになり、話し合いをしながらしっかり答えを導くことを子供たちが理解して授業を受けていることがよくわかりました。
- ・タブレットを活用しての授業を初めて参観することができました。授業でどのように活用されているのかがわかり有意義な参観になりました。
（今後も学校ウェブサイトのトピックスなどでも授業の様子を紹介して参ります。）

- ・タブレットばかりの授業だと少し物足りない気がしました。黒板も使って、字を書いて、タブレットのみに頼らない授業であって欲しいと感じました。
(黒板のよさは全体の流れが一目でわかることです。おっしゃる通り、タブレットと黒板は相補的な関係にあります。それぞれの長所を生かし短所を補い合って生徒の学びを支えています。)
- ・協働的な学びについて: 生徒が生徒に教える方法は、できない子は余計ついていけなくなるのではないかと感じました。(納得できない時は自分から尋ねる、尋ねられたら丁寧に対応する、というのが協働的な学びの基本です。求められない限り一方的に教えることはしません。自分から他者に働きかけること自体が、これから求められる大切な資質・能力と考えています。)
- ・ITはこれからの社会に必要であるためとても良いと思います。
(これからの社会で必要とされるのは使いたい知識を見つけ出す力、複数の考えを組み合わせる力、すなわちITを活用する力です。知識を暗記することだけが学びではなくなっています。)
- ・授業に積極的に参加している子と、そうではない子の差がすごく大きかった。目立つ子ばかりが楽しんでいる雰囲気、おとなしい子は下を向いている実情がなんだか切なかった。先生も一生懸命なのは分かるけど、むしろ静かな子達にスポットライトを当てさせてあげてほしいと思った。目立つ子はほっといても大丈夫です。
(ご指摘の通り、学んでいない生徒を見つけるのが授業者の一番大切な仕事です。静かな生徒は学んでいないこともあるかもしれませんが、むしろ目立つ生徒より深く考えていることも多く、そのような生徒を見出して意図的に指名し、全体で共有させることも授業者の役割です。)
- ・国全体としてアクティブ・ラーニングの流れもあるが、学び合いは本当に機能しているのかどうか、役割が固定してしまわないか、デメリットはないのか、疑問に思う部分もある。
(4人グループでは役割は決めません。誰が話し手になるか聴き手になるか、または傍聴者になるかその時の状況で刻々と変わるからです。その教科が得意な生徒が説明する頻度は当然高くなりますが、相手に合わせて説明することでその生徒自身の理解も深まると考えられます。)
- ・初めての授業参観で子供達の真剣に学んでいる姿を見ることができて良かったです。教室移動の生徒とすれ違った時みんな挨拶をしてくれました。
(ありがとうございます。下根中の生徒たちは人との関わり方がとてもやわらかくなりました。)
- ・国の施策であり、導入はやむを得ないと考えます。一方で世界的に児童の視力低下が懸念され、プログラミング、プレゼンなどタブレットならではのシーンでご指導頂ければと考えます。例えば関数は基礎を講義で学び、グラフデザインをタブレットで。体育は体感、理科は出来るだけリアルを追求、など理想を並べればキリがありませんが、いま、タブレットを使うための授業になってしまっている、と多くの現場から聞こえて参ります。宜しくご検討お願い申し上げます。
(ありがとうございます。本校では、協働的な学びによる仲間とのつながりとICTによる自分に合った学び方・表し方の両方を大切に授業をデザインするように研修を続けています。)
- ・中根小の時の学び合いで子ども達同士が話している光景に賛同していた、すなわち話すことで自分の理解が深まること、そして、他の人に説明する練習になるため、静かな授業に違和感と眼精疲労にならないのか疑問に思いました。折角、大人数がいるのにコミュニケーションがあった方が色々な考え方に触れられる機会ですので、その環境を活かしていただきたいと思います。
(静かな授業で深く思考している状況であればそのまま学びを続けるようにしています。同じ静かな状態でも、例えば課題が十分に伝わっていない、解決の手がかりが全くないなどのために静かな場合は授業者は直ちに手立てを講じます。)
- ・日本の白地図をモニターに映しての授業でしたが、もっと文字が大きい方が良いと思いました。
(表示の仕方を変えて、見せたい部分が大きく見えるように改善します。)
- ・自分の考えを他者に伝えるのに役立っていると思う。
(国語でも英語でも、画像を併用することで自信をもって表現できる生徒がたくさんいます。)
- ・タブレットを使う事で伝えたい事が具体的に分かりやすくなり良いと思いました。ただ、マスクもしているし、声も小さいので全然聞き取れなかったのが残念でした。
(今後の課題です。発言は相手に伝わって初めて意味を成します。)
- ・昨日参観した授業は使っていなかったのわかりませんが、本人に聞いたところわかりやすく良いとのことでした。

◇次号に続きます。